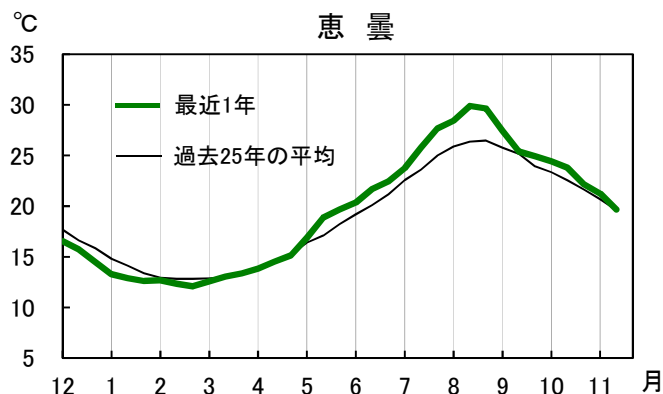
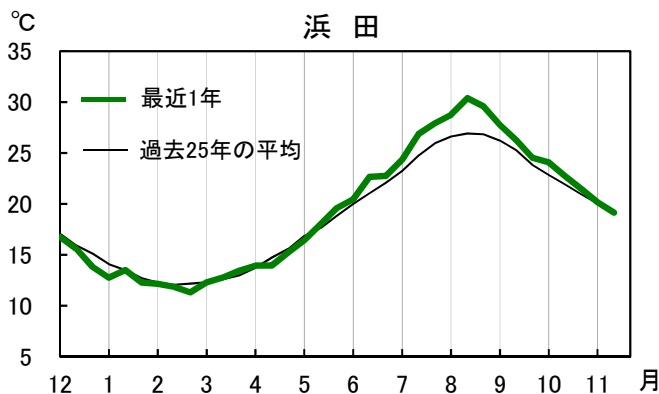


## 《10～11月の海況》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	22.7℃	+0.9℃	やや高め
恵曇	23.4℃	+0.9℃	かなり高め

沿岸定地水温は、浜田地区では10月上旬は「かなり高め」でしたが、10月中～下旬は「やや高め」となり、11月に入り中旬時点で「平年並み」で経過しています。一方、恵曇地区では10月上～中旬は「かなり高め」でしたが、10月下旬～11月上旬は「やや高め」となり、11月中旬は「平年並み」で経過しています。



## 《10月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サワラ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。主体であるマアジ、サワラ、サバ類はそれぞれ平年の5割、7割、1割と大きく下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。主体であるマアジ、マイワシは、西郷地区でそれぞれ平年の2倍、9倍、浦郷地区で4倍、12倍となりました。また、例年主体となるサバ類は、全く水揚げがありませんでした。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の97%）を主体にスルメイカ（全体の2%）とアオリイカ（全体の1%）が混じる漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は313kgで平年並みでした。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ（全体の77%）が主体で、ソデイカ（全体の23%）も漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は116kgで平年並みでした。両地区ともケンサキイカは平年を下回る漁況でした。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、キダイ、ケンサキイカ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は前年をやや下回りましたが、平年（過去10年平均）並みの水揚げとなりました。ムシガレイ、ケンサキイカは平年の6～7割の水揚げに留まりましたが、キダイは平年の2.2倍の水揚げとなりました。またアカムツは小型サイズを中心にまとまり、平年の1.6倍の水揚げとなりました。

## 【小型底びき網漁業】

和江地区ではアナゴ類、キダイ、アンコウ主体、久手地区ではアナゴ類、アンコウ主体の漁況でした。1隻1航海当たりの漁獲量は、和江地区では平年並みでしたが、久手地区では平年をやや上回りました。アナゴ類、アカムツ、ヤリイカは両地区ともに好調で平年の2.1～4.1倍の水揚げがありました。一方、ソウハチ、ケンサキイカは低調で、ケンサキイカは平年の2割、ソウハチは平年の4～5割の水揚げに留まりました。

## 【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではマアジ、サワラ類がそれぞれ平年の8割、1.3倍と平年並みでしたが、その他の魚種は低調だったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではブリ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の1.4倍だったものの、ブリが5割、アジ、サバ類も低調だったため全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではサバ類、カンパチ主体の漁況で、1統当りではサバ類、カンパチともに平年の7倍と好調であり、その他の魚種も好調か平年並みであったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。

## 【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、ヒラマサ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は22kgで平年を下回りました。出雲地区ではケンサキイカ、ブリ、マダイ、サワラ類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は25kgで平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、クロマグロ（ヨコワ）、ソデイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は34kgで平年並みでした。隠岐地区のヨコワ曳縄釣りは平年を上回る漁況でした。また、各地区で漁獲の主体となっているケンサキイカは、出雲・石見地区では平年を下回り、隠岐地区では平年並みの漁模様でした。

【平成 25 年 10 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サワラ、サバ類	232トン	125%	37%	8.6トン	101%	45%	▲
	西郷	マイワシ、マアジ	11,340トン	116%	130%	149トン	127%	157%	◎
	浦郷	マアジ、マイワシ	5,321トン	127%	141%	85.8トン	127%	131%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	179トン	85%	65%	313kg	141%	89%	○
	西郷	ケンサキイカ、ソデイカ	11トン	25%	61%	116kg	64%	72%	○
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ・キダイ・ケンサキイカ	317トン	84%	86%	12.7トン	94%	94%	○
小型 底びき網	久手	アナゴ類・アンコウ	196トン	89%	84%	885kg	119%	112%	◎
	和江	アナゴ類・キダイ・アンコウ	328トン	96%	96%	800kg	101%	100%	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ、サワラ類	10トン	42%	19%	1.4トン	169%	141%	◎
	美保関	その他の魚、マアジ、カマス	87トン	37%	52%	1.7トン	49%	68%	▲
	浦郷	サバ類、カンパチ	54トン	96%	179%	1.8トン	93%	173%	◎
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、ヒラマサ、メダイ	11トン	49%	40%	37kg	75%	69%	▲
	大社	ブリ、ケンサキイカ	11トン	73%	70%	31kg	94%	100%	○
	西郷	ソデイカ、クロマグロ(ヨコワ)、ケンサキイカ	18トン	58%	68%	22kg	46%	59%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

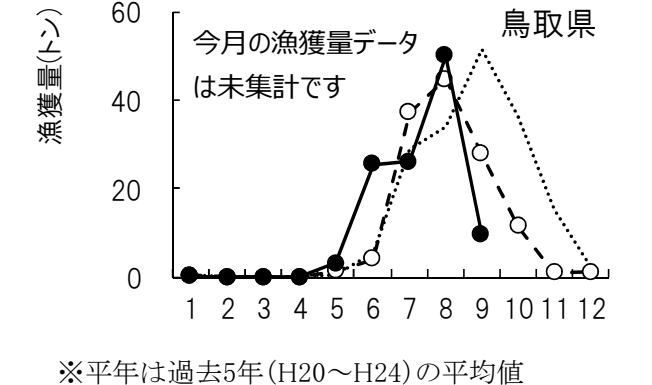
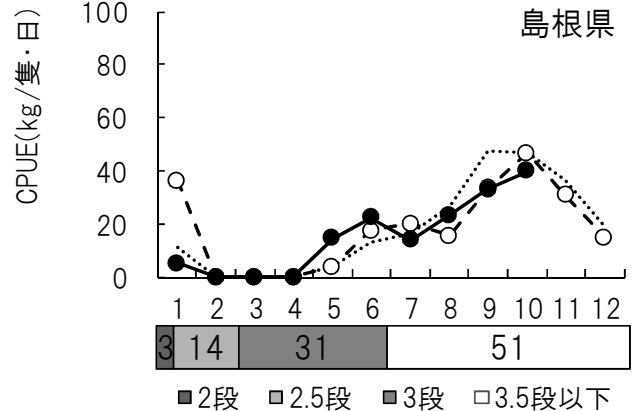
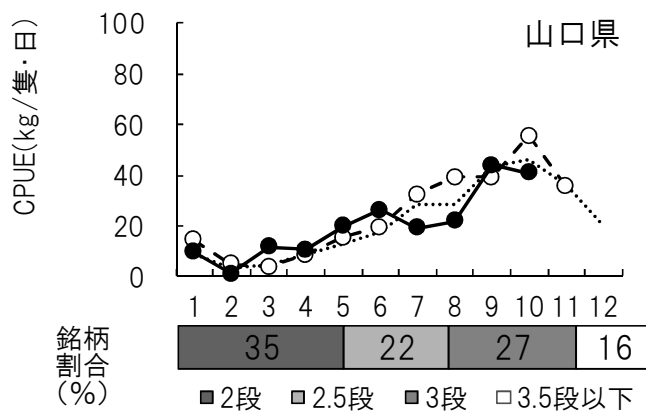
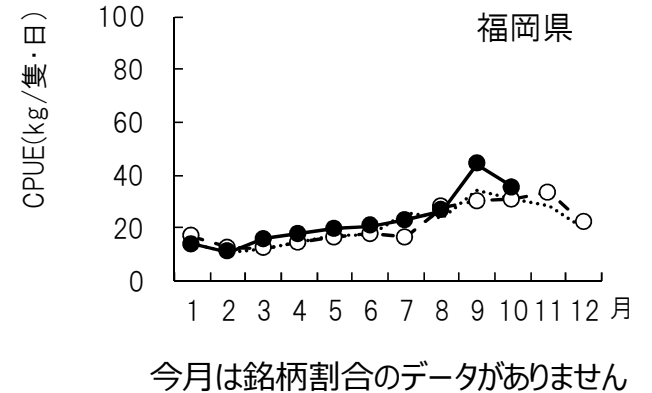
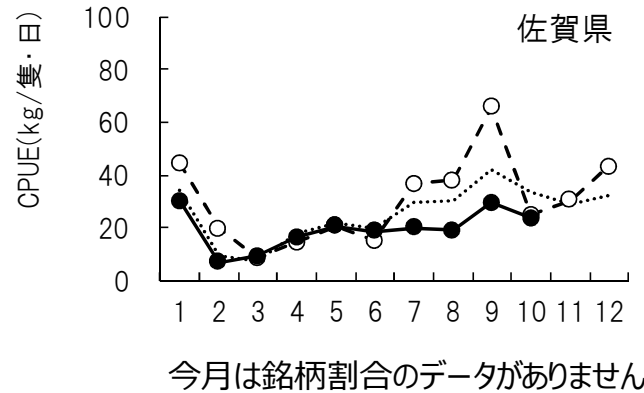
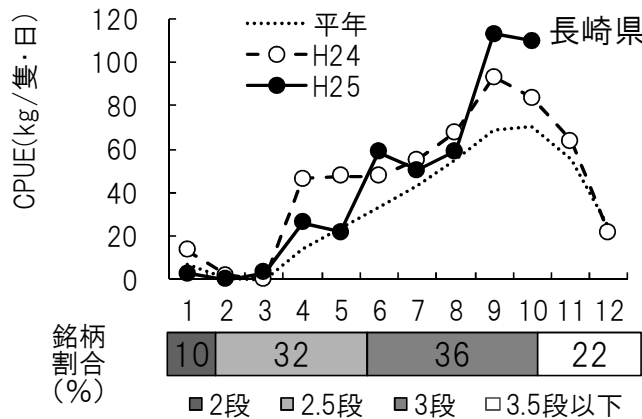
発行日：平成25年11月20日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

**I：10月のイカ釣り漁況** これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県は平年を上回る漁況でしたが、佐賀県～鳥取県では平年並みもしくは平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年、平年を上回りました(前年比131%、平年比156%)。	佐賀県	標本港の漁獲量は前年・平年を下回りました(前年比74%、平年比39%)。	福岡県	10月はシケの影響で出漁隻数が減少し、代表港の漁獲量は前年比72%、平年比69%と前年・平年を下回りました。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比40%、平年比44%)。	島根県	主要7港の水揚量は244トンで、前年・平年を下回りました(前年比60%、平年比56%)。	鳥取県	10月の漁獲データは未集計ですが、9月以降鳥取県沿岸での漁獲は伸びていません。



Ⅱ：11月上旬の底層水温

長崎県	底層水温は、16～21℃台でした。	佐賀県	底層水温は、壱岐水道は21.4～21.6℃、対馬東水道が16.1～22.2℃で平年並み～やや高めでした。	福岡県	沿岸域の水温は、21～22℃台と平年並み～かなり高め、沖合域の水温は、17～22℃台と平年並み～甚だ高めとなっています。
山口県	底層水温は8～21℃を示し、沖合の冷水域を除き、平年並みからやや高めであった。	島根県	温泉津沖(水深140～200m)は1～7℃で「やや低め～かなり低め」でした。高山沖(水深90～180m)は3～19℃で「はなはだ低め～かなり高め」で、灘側が低い傾向でした。	鳥取県	水深100m以浅の海域の底層水温は19℃前後でした。



図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図